

海上保安・横浜税関・横浜開港：3ヶ所の資料館の見学

実施月日：令和元年11月1日（金） 快晴

参加人数：32名

幹事：勝山悌治（代表）、小野寺愛子、田辺桂子

写真撮影：佐藤 敬



★海上保安資料館前にて

★税関資料展示室前にて

今日は小春日和の天候に恵まれ、参加者32名全員がJR桜木町駅を9:45頃出発、25分ほど歩いて海上保安資料館に到着、集合写真を撮り、入館し説明を受けました。

海上保安資料館は日本の周辺海域の現状と海上警備の重要性などを理解して頂くため、平成16年12月10日に開館しました。館内には平成13年12月22日に発生した、九州南西海域工作船事件にかかる工作船（全長30M、幅約5M、小型船を搭載のため後部にエアシリンダー開閉式観音扉があり、正当防衛射撃とその後の自爆により自沈）及び回収物などが展示されております。その生々しさに衝撃を受けました。

次に10分ほど歩いて税関資料展示室に到着、集合写真を撮り、入館しました。

初めにDVDにより約20分間の映像を見ました。

税関の使命として、安全・安心な社会の実現（麻薬・銃器・爆発物等の取り締まり）、関税の徴収、貿易の円滑化等に取り組んでいます。

その後、説明員から、1859年の開国と同時に「運上所」が設けられ1872年に「税関」と呼称が統一されました。

横浜税関本庁舎の最大の特徴となっているイスラム風の塔屋は、クイーンと呼ばれ、神奈川県庁本庁舎（キング）、横浜市開港記念会館（ジャック）とともに「横浜三塔」の愛称で親しまれています。

その後、近くにある横浜開港資料館に入館し、日本の開国、横浜の開港を中心に江戸期から昭和初期までの横浜に関する内外の歴史資料を見学しました。

最後に、天吉で和食をいただきながら、団欒のひと時を過ごし、帰途につきました（完）